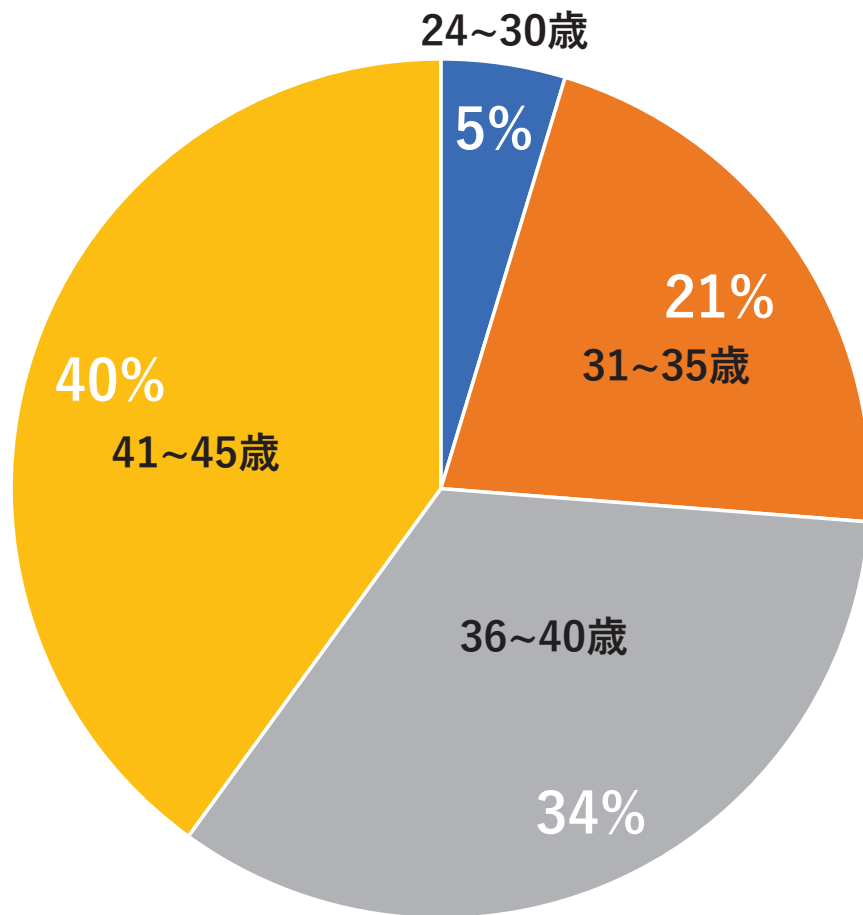


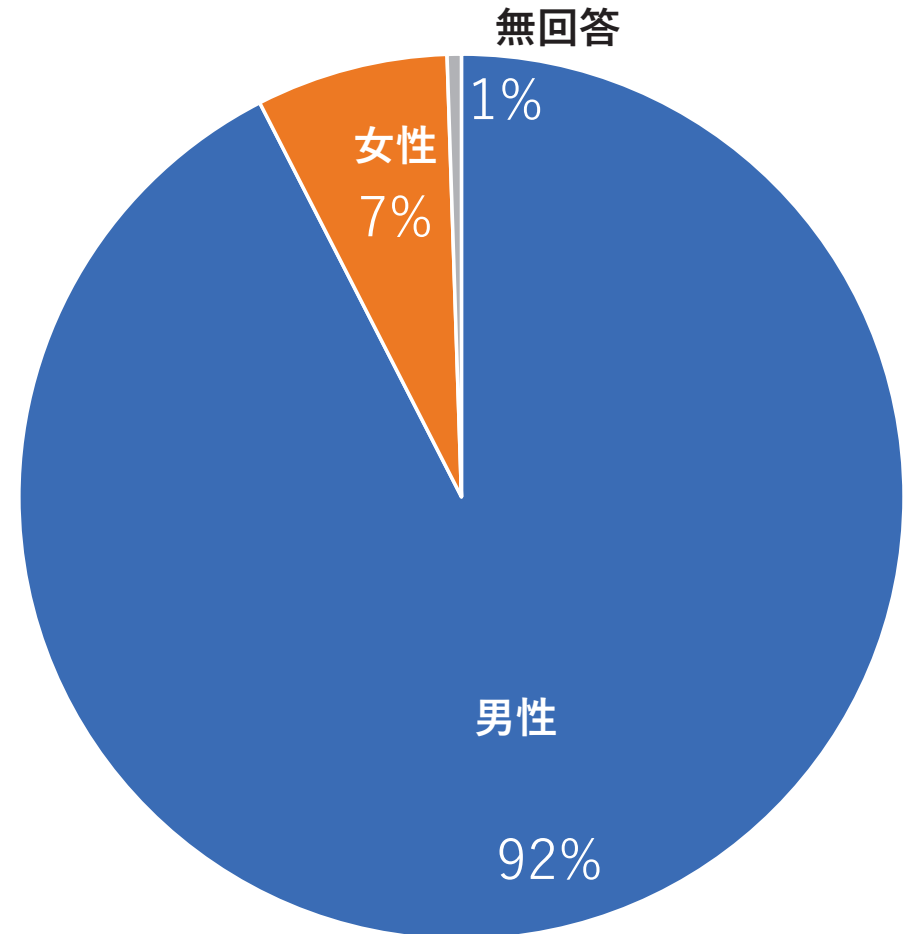
日本肝胆膵外科学会  
45歳以下若手会員対象  
学術集会の英語化に関するアンケート調査

回答 385名/1685名 (22.8%)

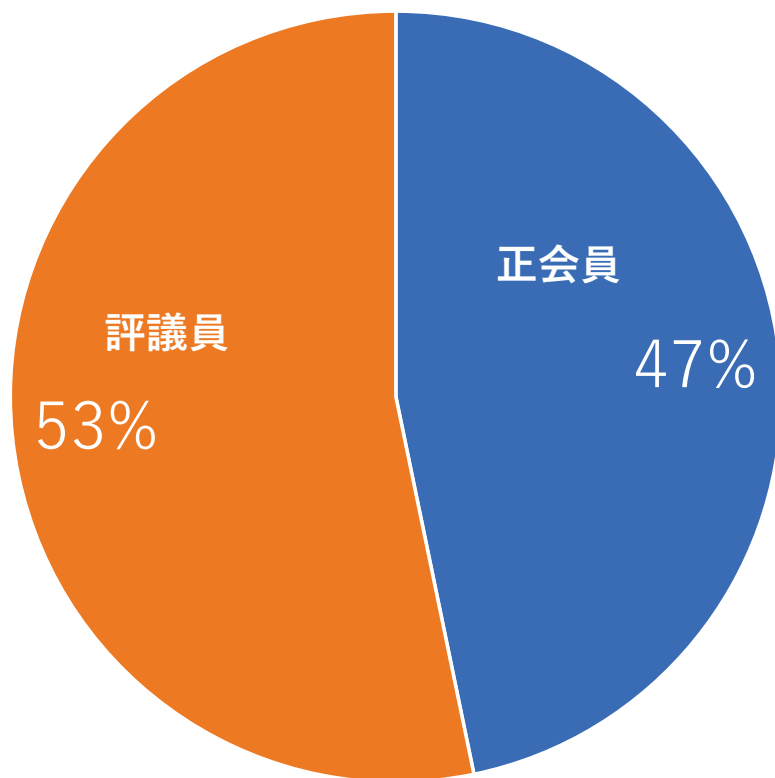
## 1. 年齡



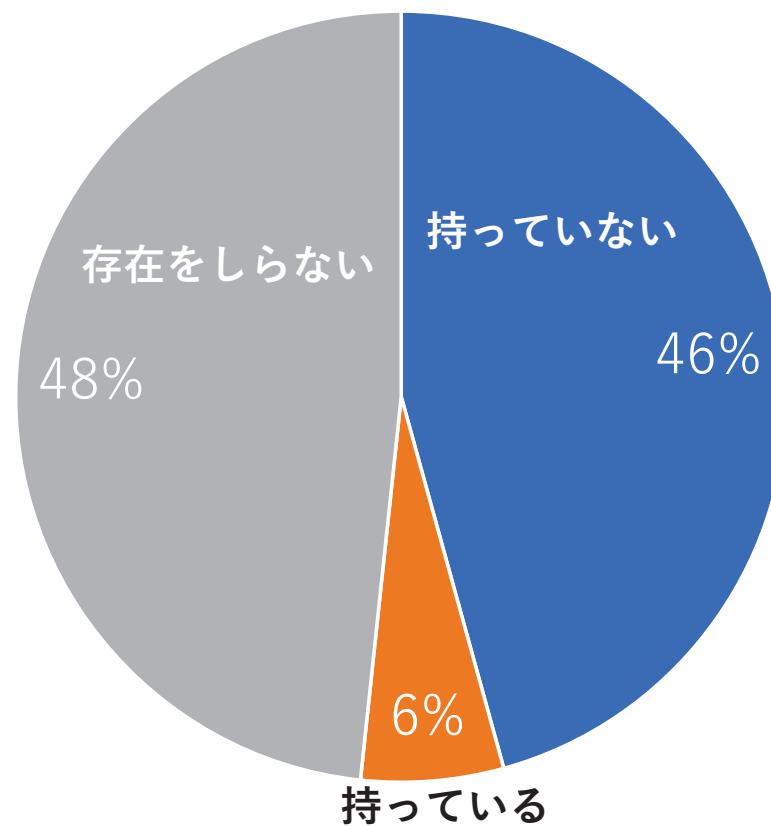
## 2. 性別



### 3. 会員区分

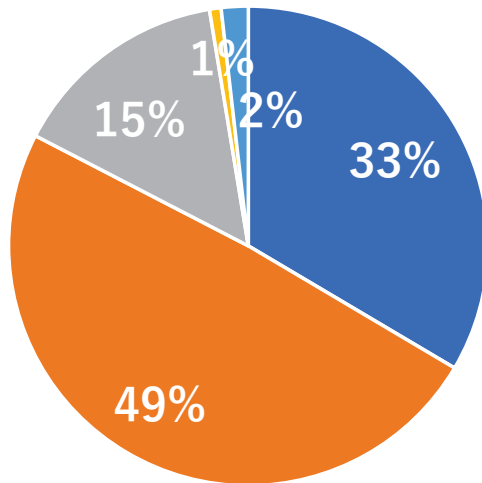


### 4. Japan HPB passport



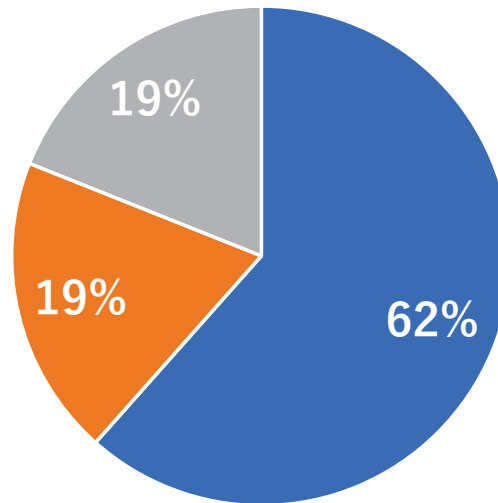
## 所属施設

### 5. 所属施設



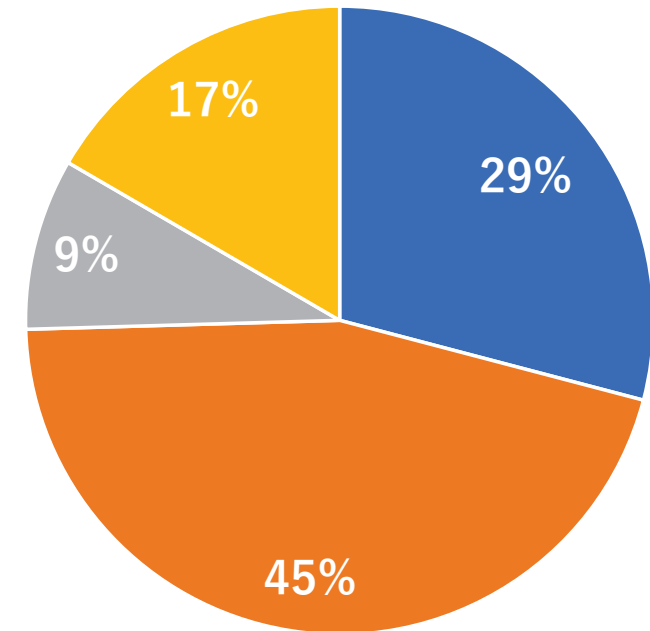
- 公立病院/公的病院
- 大学病院
- 民間病院
- 留学中
- その他

### 6. 認定施設



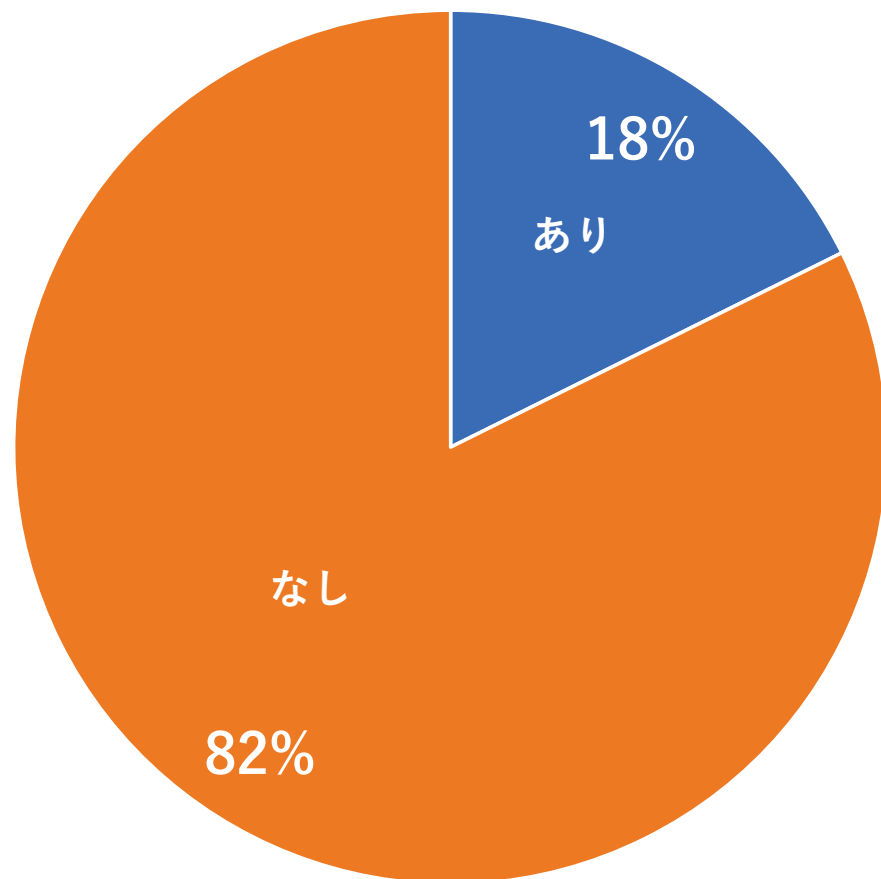
- 高度技能専門医修練施設A
- 高度技能専門医修練施設B
- 高度技能専門医修練施設ではない

## 7. 専門医取得状況

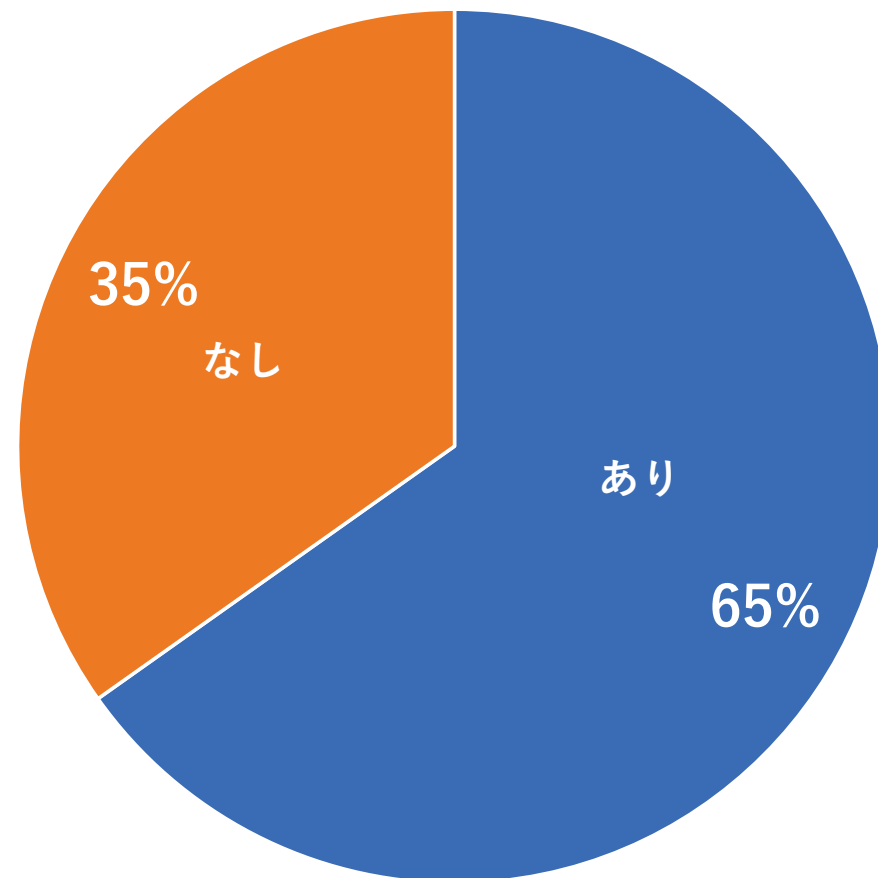


- 高度技能専門医
- 高度技能専門医修練中
- 取得予定なし
- 外科専門医/消化器外科専門医修練中

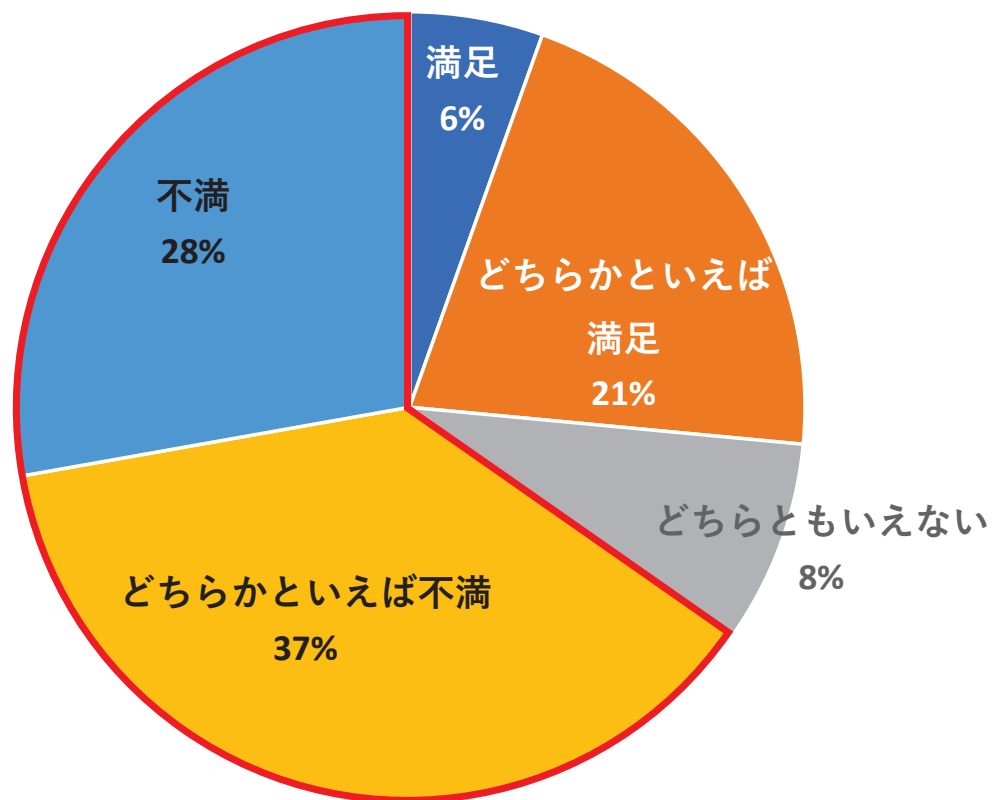
## 8. 留学経験について



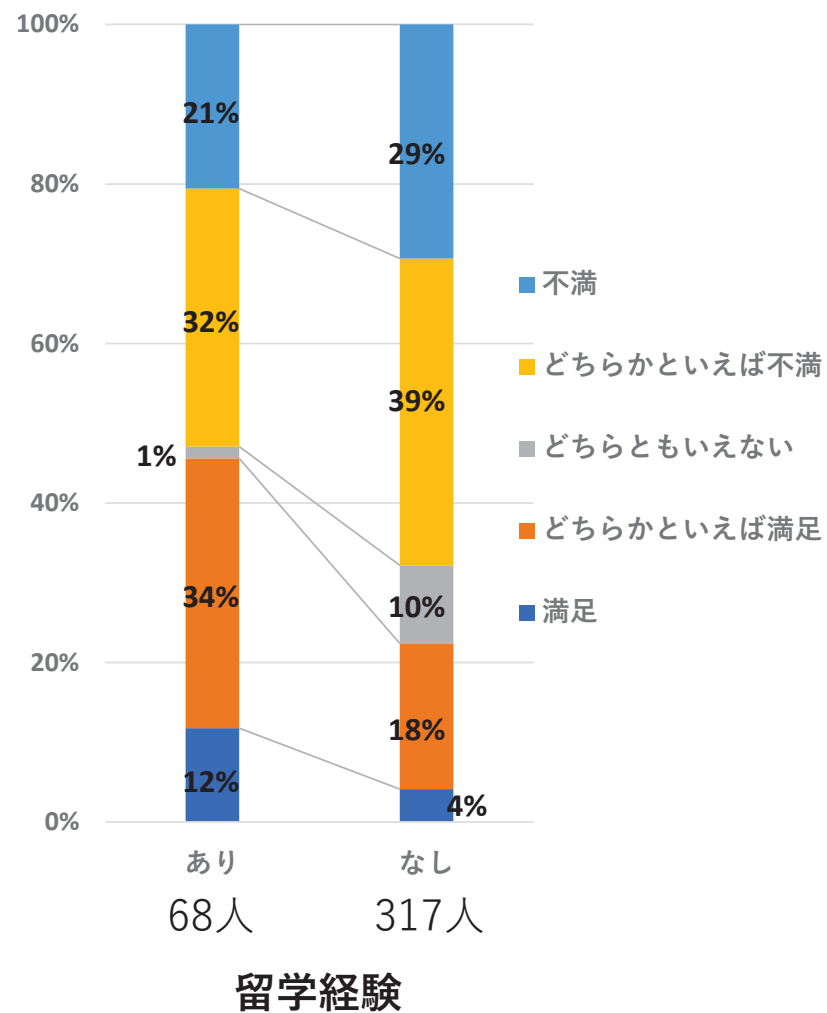
## 9. 海外学会参加経験について



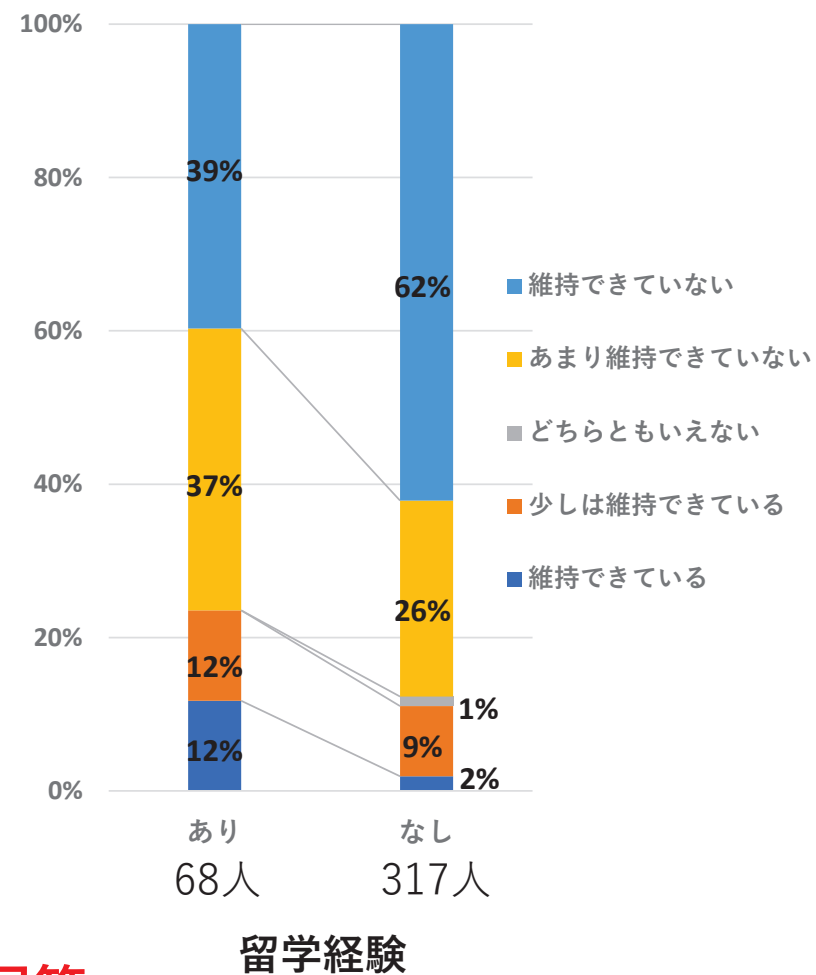
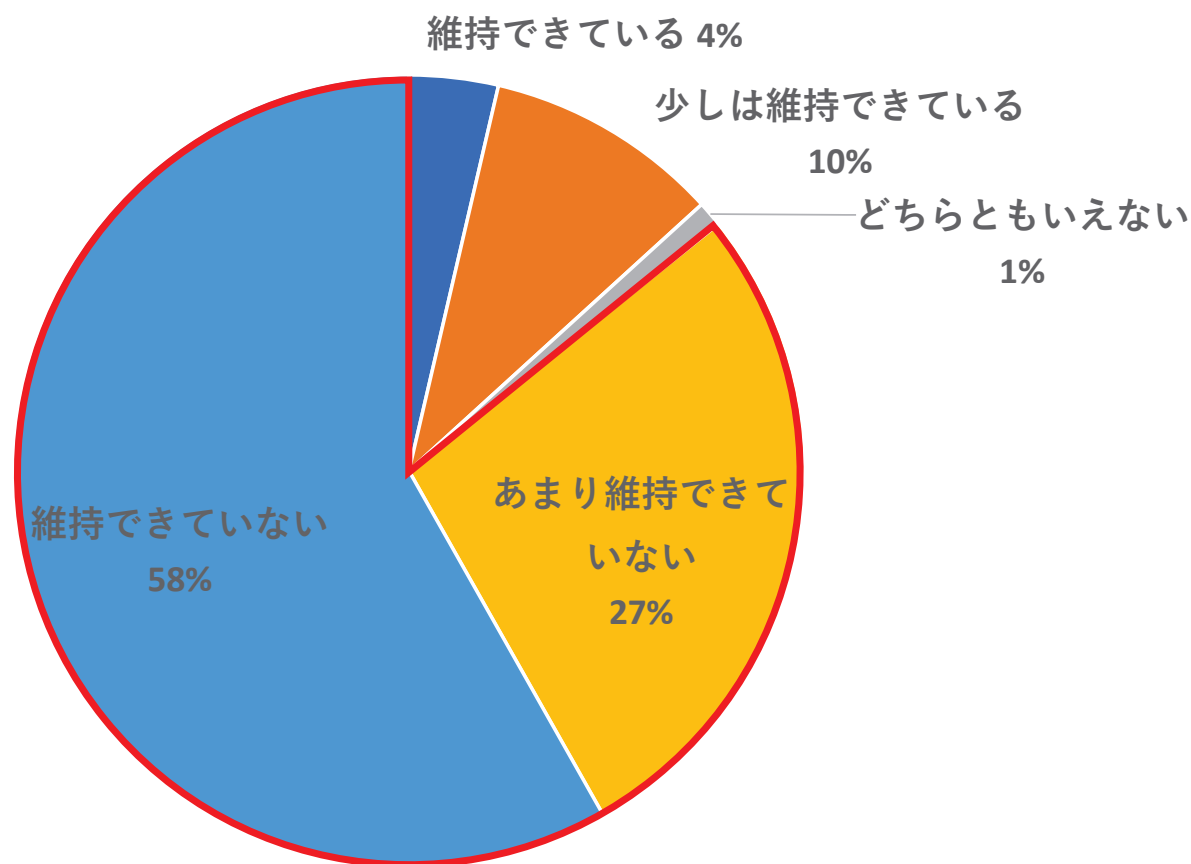
## 10. 現在の学術集会の英語化について



65%が不満と回答

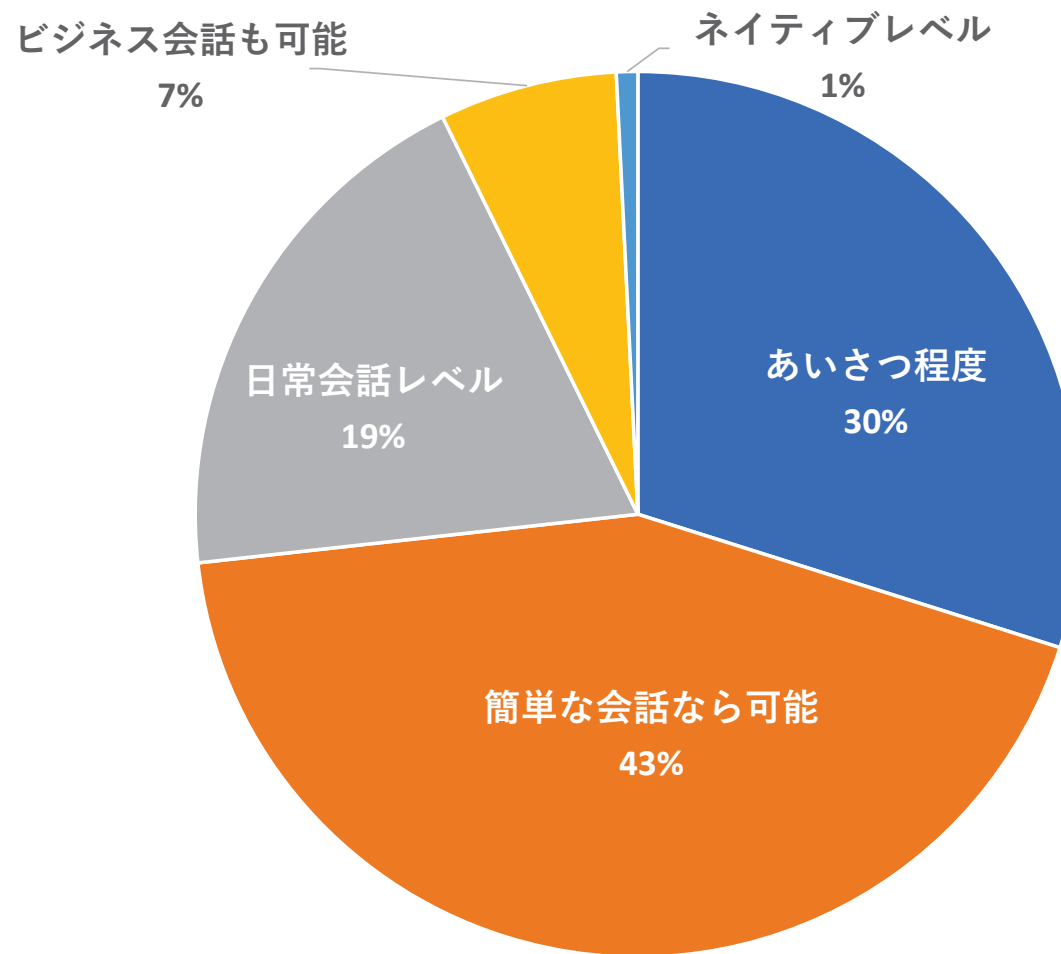


# 11. 学術集会として英語の発表議論で、日本語の時と同様の学術レベルが維持できているか



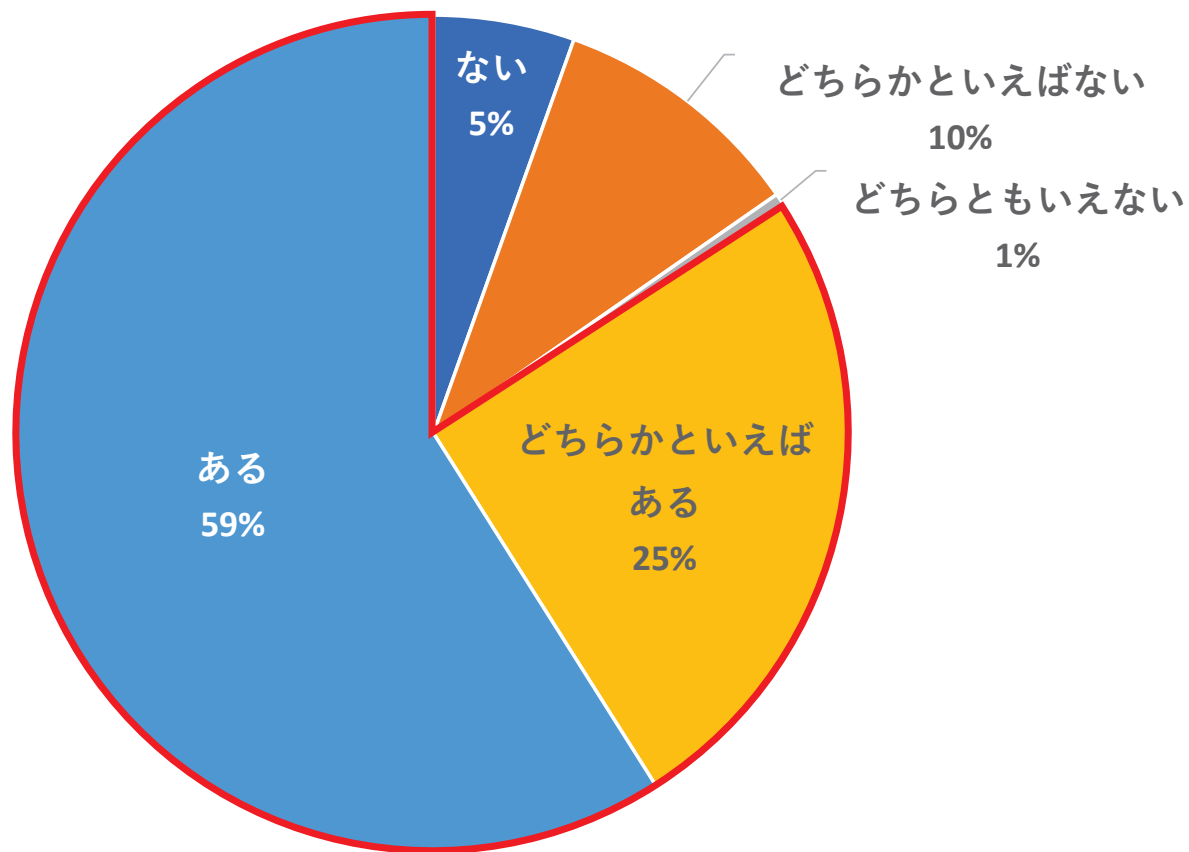
85%が維持できていないと回答

## 12. 自分が思う英語能力について

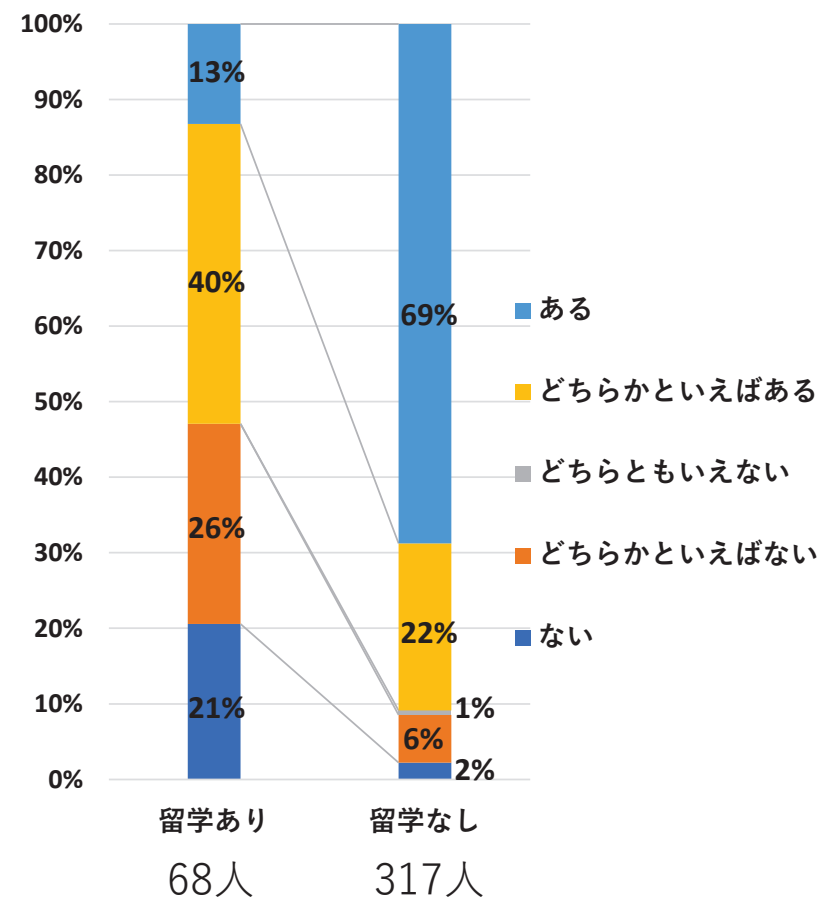




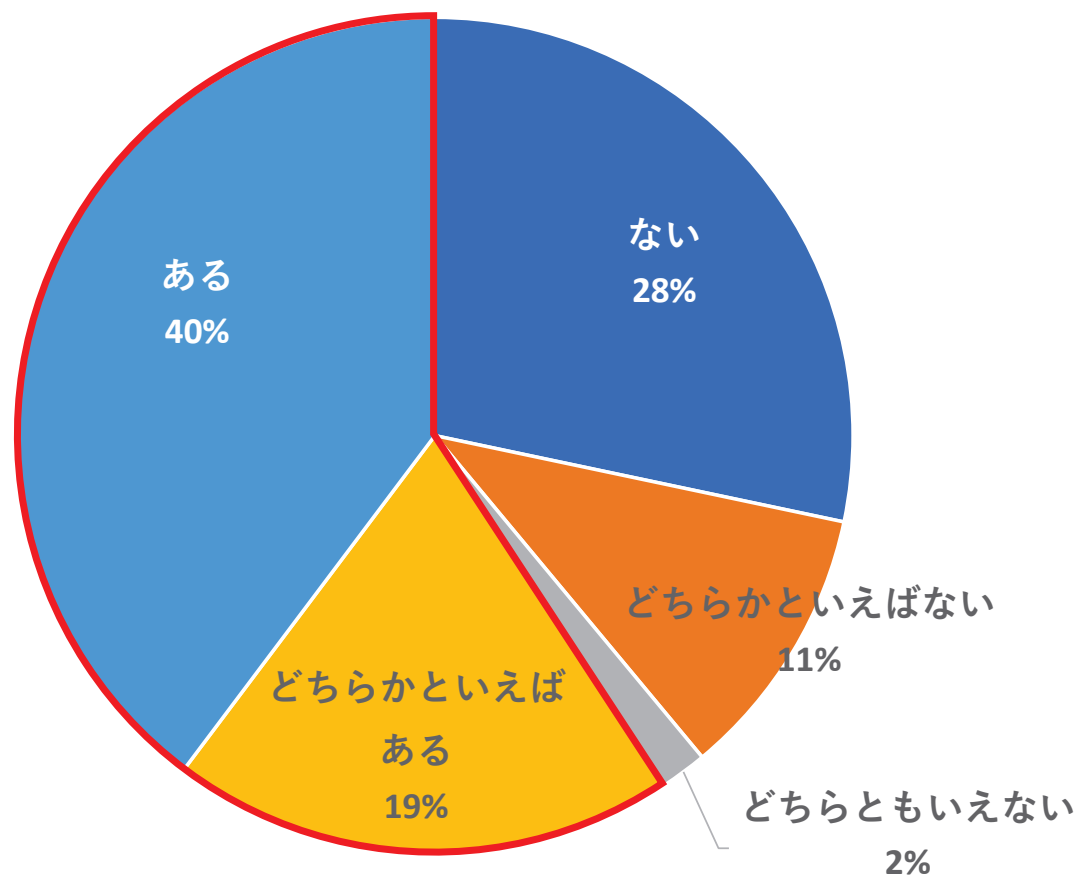
### 13. 英語での発表・議論に苦手意識があるか



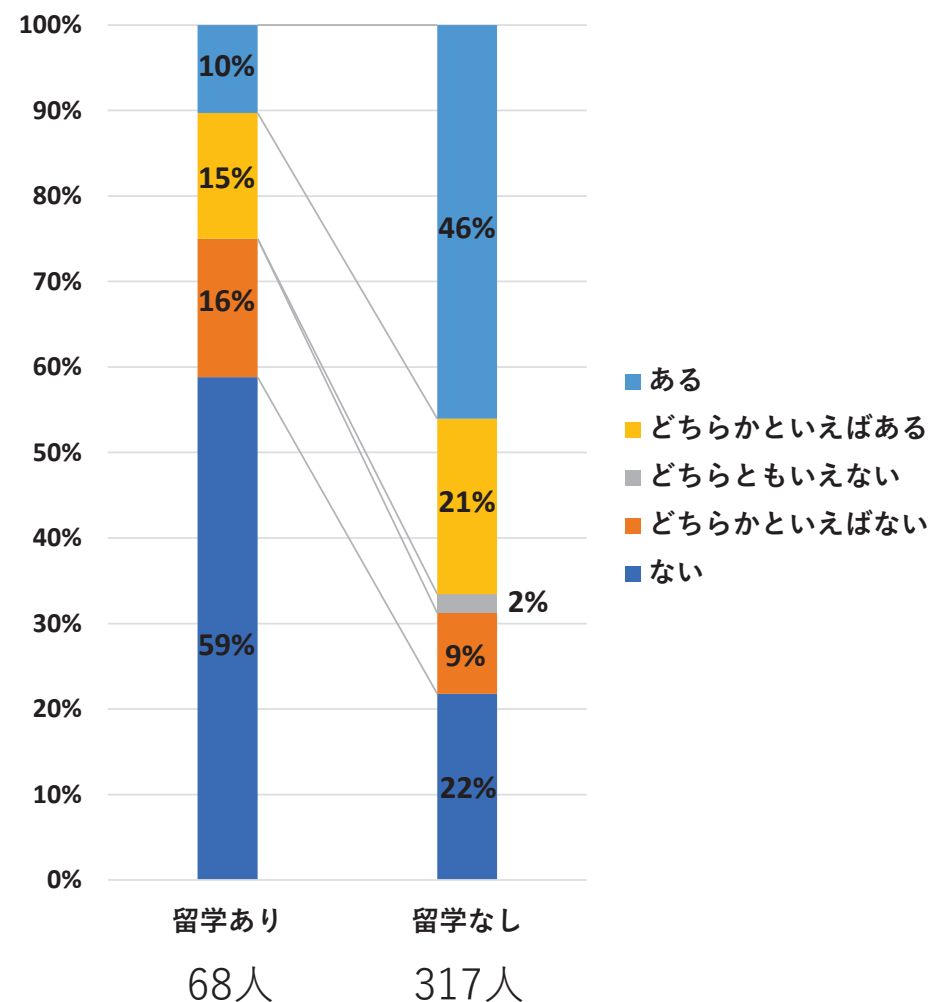
84%が英語の発表に苦手意識あり



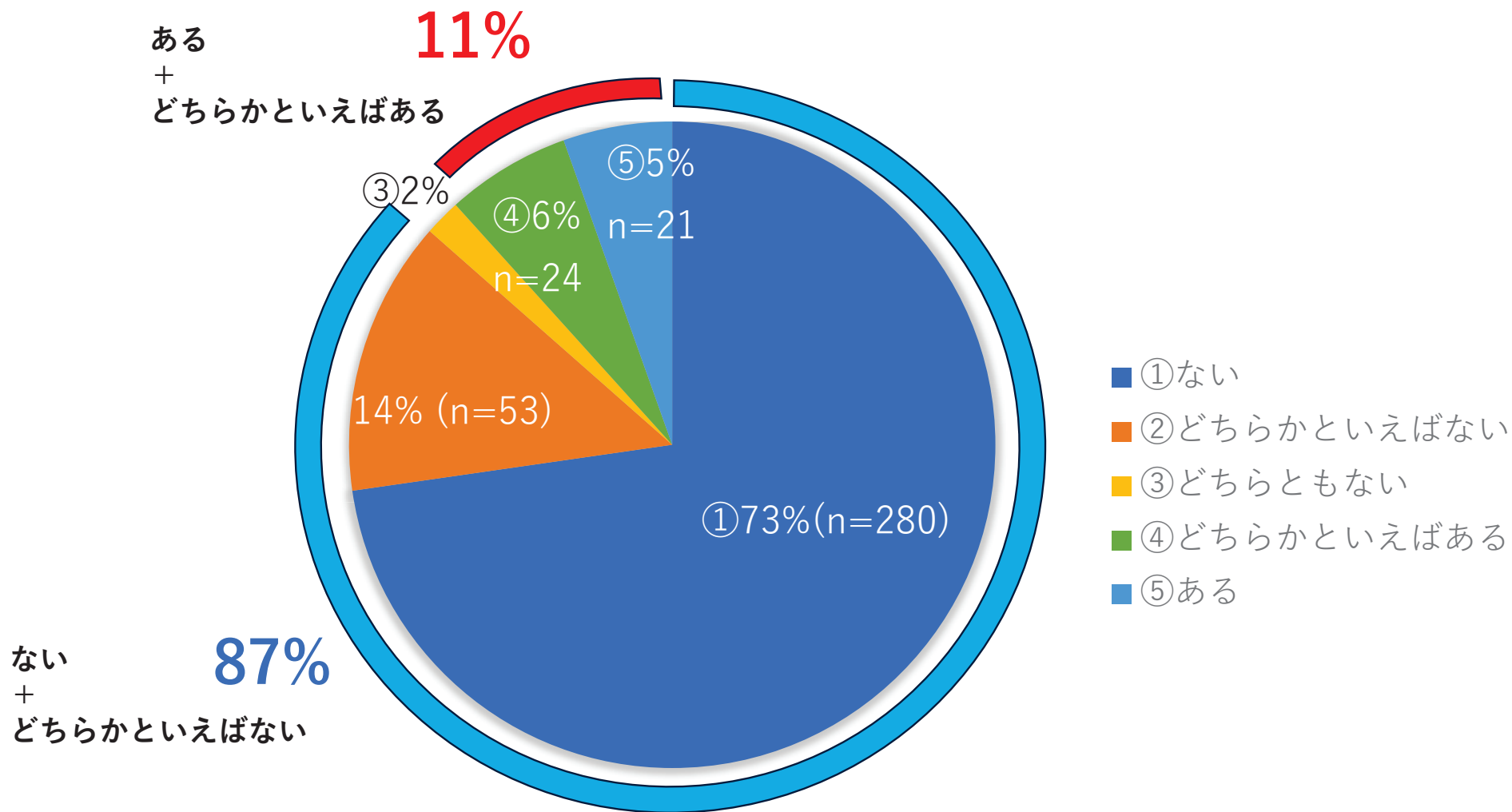
## 14. 学術集会在英語化のために、学会参加をためらったことがあるか



**59%が学会参加をためらったことがある**



# 15. 学術集会の英語化のために、肝胆膵外科医をやめようと思ったことがあるか

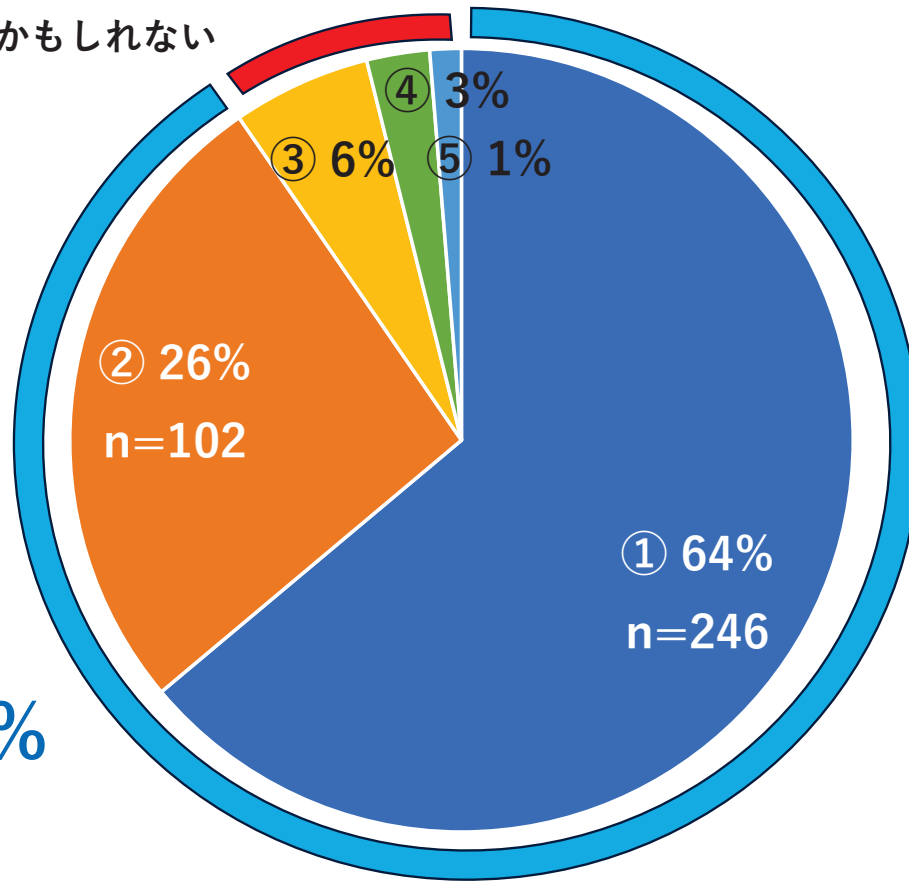


## 16. 学術集会在英語化されていることがわかっていたら、肝胆膵外科医という進路に影響したか

目指さなかった  
+  
目指さなかったかもしれない

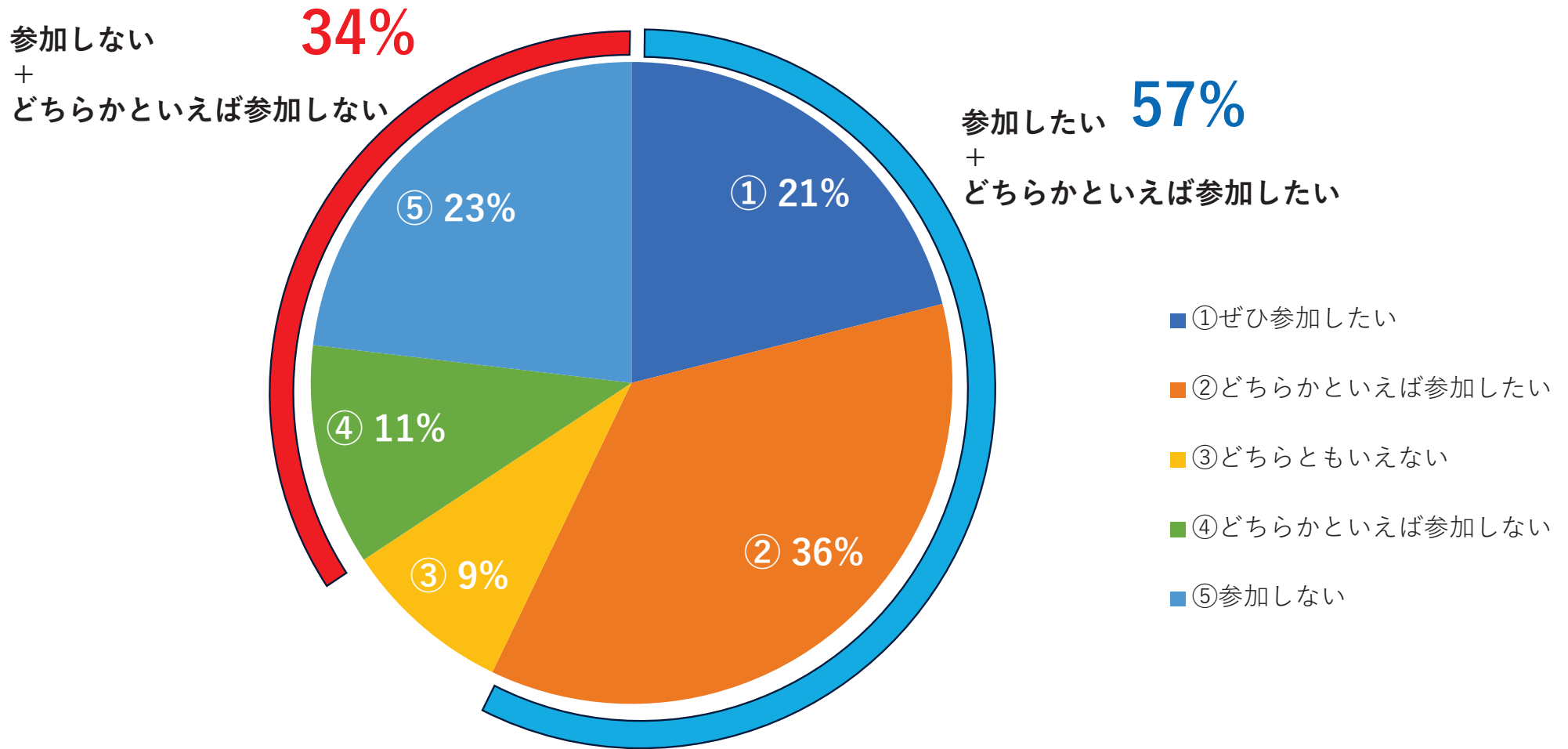
9%

全く関係ない  
+  
あまり関係ない  
90%

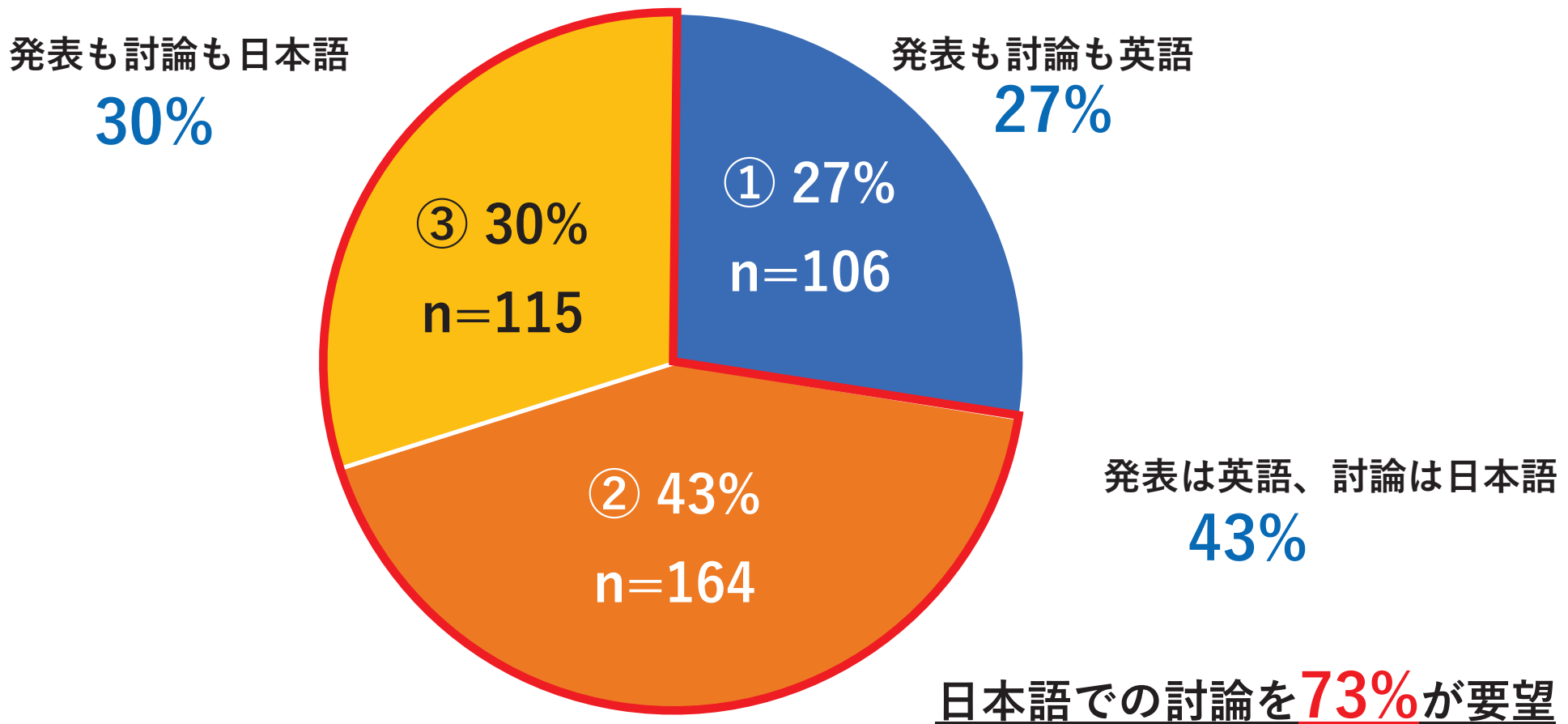


- ① 全く関係ない
- ② あまり関係ない
- ③ 肝胆膵外科医を目指さなかったかもしれない
- ④ 肝胆膵外科医を目指さなかった
- ⑤ どちらともいえない

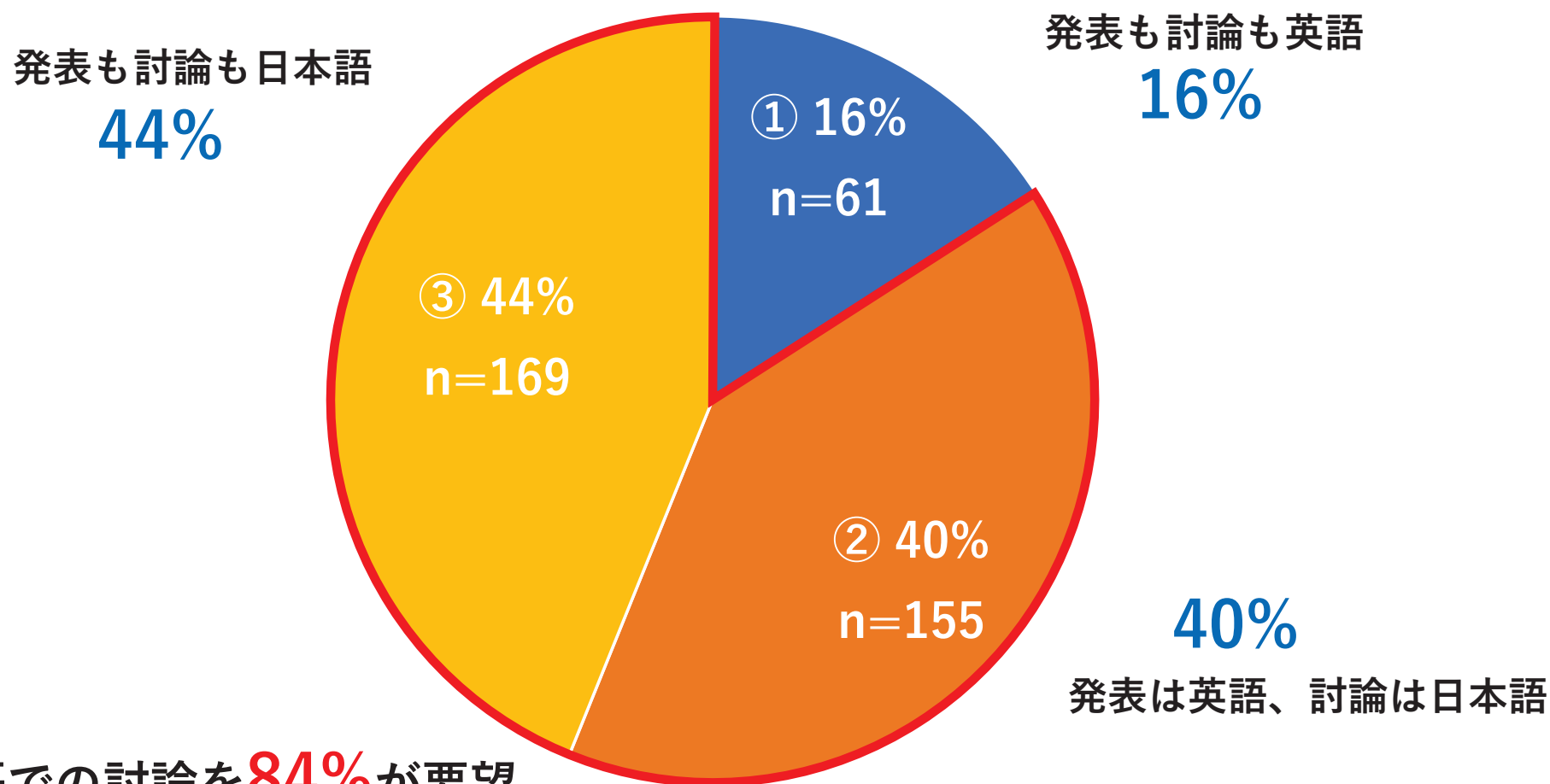
## 17. 英語発表のトレーニングセッションに 参加したいか



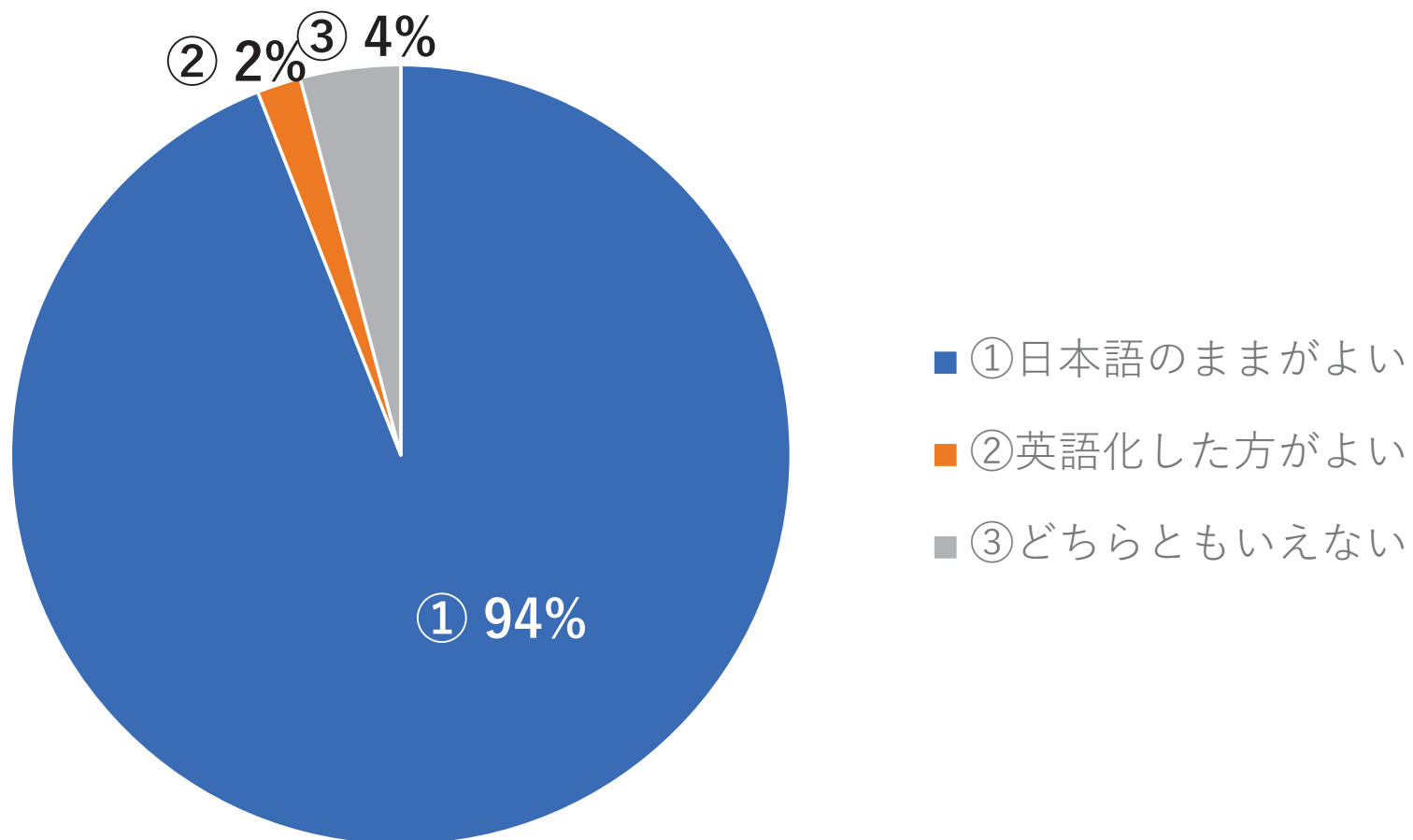
## 18. 上級演題の英語化についての要望



## 19. 一般・ポスター演題の英語化についての要望

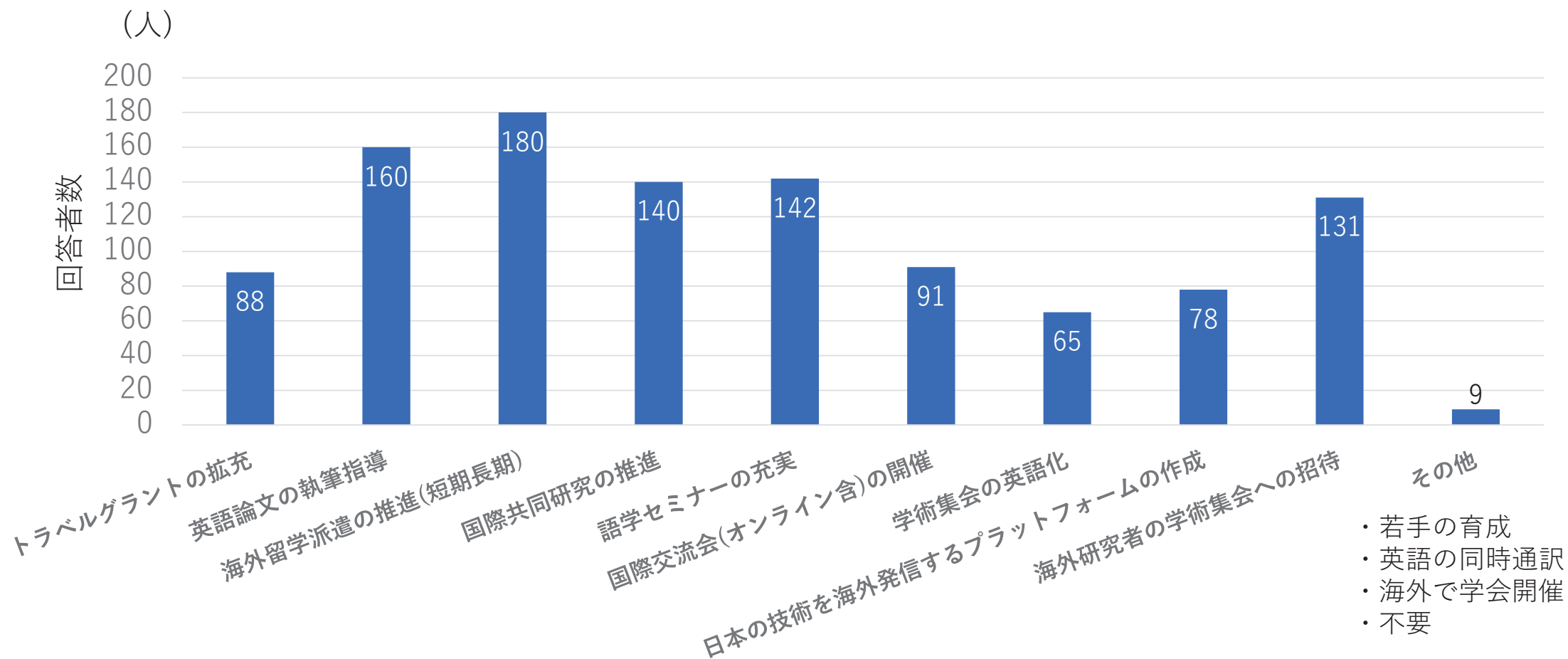


## 20. 現在日本語で行っている教育セミナーの英語化についての要望





## 21. 日本肝胆膵外科学会のグローバル化にむけどのような取り組みが必要か(複数回答可)



## 22. 学術集会の英語化に関して日本肝胆膵外科学会への要望 自由記載 (170名記載)

発表セッションを分ける、または討論など一部日本語がよい (一部抜粋) 114名 (67.1%)

- 討議は日本語とし、会場に通訳者を配置する。
- 討論は母国語の方がより深い議論ができる(せめて日本語併用可にしたらどうか)。
- 英語化によって特に討論部分で内容が希薄化したと思います。英語は英語のセッションを設ける、海外招聘者がいるセッションは英語、というメリハリが必要ではないかと思いました。
- 発表は英語。ポスターに関しては議論は日本語が良い。
- 国際化は良いが、討論のレベルが下がるなら討論だけでも日本語の方が良い。今時同時通訳や翻訳アプリなどのAIも発展しているので、そのあたりも上手く使えば良いのではないかと思う。
- 討論は日本語英語どちらでも可、みたいなのが助かります。
- 発表は英語でも討論は日本語、英語は英語のセッションを設ける。英語発表のコツを学ぶセッションを毎回設定していただく。英語だけでは議論が非常に浅く、学ぶことが極端に少ない学会となる。
- 海外招聘者がいるセッションのみ完全英語。他は日本語の余地を残しておいた方が良い様に思う。
- インターナショナルセッションと日本語セッションに分けて、英語での国際化セッションと日本語でディスカッション出来るセッションを両立したほうがいい。
- 少なくとも討論は日本語でない则会話が成り立たない

## 22. 学術集会の英語化に関して日本肝胆膵外科学会への要望 自由記載 (170名記載)

発表セッションを分ける、または討論など一部日本語がよい (一部抜粋) 114名 (67.1%)

- 多くの先生が、日本語と同様レベルの議論ができていないと思っています。学会の意義を考えると議論は日本語の方がよいかと考えます。
- 修練医で聴講する立場として、学会発表の内容は準備された発表とスライドも含めて英語でも理解できるが、英語の質疑応答に関しては議論が不十分な場合が多いと感じた。英語が不得手な発表者は日本語でも回答可能とするなどの柔軟な対応を考えていただきたい。
- 英語のセッションを別で設けて、英語発表・英語討論可能な発表者は抄録登録時点で英語セッション可能かのアンケートを行う。
- 議論は英語に限定するのではなく、日本語も可とするのはいかがでしょうか (行うと決めるのではなく、許容するというニュアンスで)
- スライドは英語でも構わないが、発表は日本語のセッション (7-5割) と英語のセッション (3-5割) とする。
- 海外招聘者がいるセッションと上級演題は英語で良いと思うが、下級演題は日本語にしないと裾野は広がらない。敷居が高いと思わせる。
- ポスターセッションは日本語化を希望。

## 22. 学術集会の英語化に関して日本肝胆膵外科学会への要望 自由記載 (170名記載)

### 英語化に前向き、肯定的な意見（一部抜粋）13名（7.6%）

- 討論も英語であったため、英語の勉強のモチベーションになって非常によかった。
- 英語に苦手意識がありましたが数年経過しポスターレベルであれば抵抗はなくなりました。
- ポスターセッションについては司会でも英語が苦手な医師が多いため議論になっていない。ただ、英語発表はスキルとして必要なものでその機会をなくすべきではないと思う。
- 英語化のまま突き進んでほしいと思います。若いDrも少しずつ慣れてきていると思います。
- 言いたいことが言えない時は日本語でも可と明文化してくれたら嬉しいです。質問しやすい。極力英語で頑張ります。
- 発表・討論も基本は英語だけれども、討論で十分に議論が深まらない場合は日本語可である雰囲気ルールに明記するなどして醸成してほしい
- 日本の肝胆膵外科は世界をリードする一翼を担っていると思います。発表の英語化は不可避だと思えますし、日本語での討論をした場合、海外のオーディエンスがいた場合、かわいそうだと思います。素晴らしい発表でも、海外の方が次回も参加したいと思えなかったら少し残念です。理想を言えば、上級演題だけでも日本語で討論して、同時通訳を配置いただけたらと個人的には思います。

## 22. 学術集会の英語化に関して日本肝胆膵外科学会への要望 自由記載 (170名記載)

### 英語化に否定的なご意見（一部抜粋）18名（10.6%）

- 学術集会に我々は英語の勉強をしに来ているのではない。肝胆膵外科の勉強をするために参加している。内容の薄い討論を聞いても得るものもない。英語のために参加していない外科医が市中病院には多数いる。英語の話せる医師のみの学会にしたいのだろうか。グローバル化を図りたいのなら、国際学会で発信すればよい。
- 英語でやるなら別個研究会をつくってそちらでお願いします。
- 学会言語を英語化することと、学会の発展は別と考えます。学会会員の約半分は、英語言語で発表する以前に、発表内容が学術的にも十分練られておらず、それを英語にすることでさらに発表の質が落ちていきます。発表後の質問数が少ないことがそれを物語っています。
- 英語化は必要ないと思います。英語はIHPBAでやればよく、国内の学会としてのクオリティを向上させてほしいです。例えば中国の肝胆外科学会は中国語でしてます。国際化と英語化は必ずしもイコールではないです。
- 完全英語化から5年たち、毎年日本語のセッション要望もあり、おとなの事情もあるかと存じますが、理事会でも議論されていらっしゃると思われるが、全く変わらないのが現状かと存じます。(肝胆膵外科学会の組織としてよくない点かと思えます。)(率直なご無礼申しわけございません。)
- グローバル化は必要なのだと思いますが、参加しても新しい知見を得られた感覚は乏しくなっており、参加意欲が低下しています。

## 22. 学術集会の英語化に関して日本肝胆膵外科学会への要望 自由記載 (170名記載)

### 英語化に否定的なご意見（一部抜粋）18名（10.6%）

- 学会の本来の目的は肝胆膵外科についての技術や知識の向上。英語の発表会ではない。翻訳機を導入してまで日本人同士で英語で話す意味はありますか？日本肝胆膵外科学会は本来の目的を優先しましょう。グローバル化に向けては同時に海外向けの学会を併設すればよい。
- 上級演題の英語堪能者以外、学会での討論はいっさい盛り上がらないし、勉強にならない。学会にあって勉強したいという気持ちをそぐ英語化であり、形ばかりのグローバル化は必要ない。上級演題での海外招聘者がいる場合のみで十分。
- 言語の問題で学会の質が低下していることに大きな矛盾を感じる。学術集会は語学実習の場ではない。英語で学術集会をすべきと思われている先生はご自身の発表を主体的に英語にすれば良いだけの話である。参加者全員に学会側から強要するべきではない。
- 討論が英語であるとディスカッションの内容がpoorになるため、セッションでの有意義性は損なわれていることを感じる。学会の「完全」英語化は、今後の進路を考えている若手外科医の「肝胆膵外科離れ」に一役買っている。
- 英語の発表と質疑応答で、みんな日本語と比較すれば理解度や充実度は低いのに、学会には資格の取得や維持のために半強制的に参加しなければならない。現段階では数ある学術集会の中で、最も参加しても充実度の低い学術集会の1つではないでしょうか。

## 22. 学術集会の英語化に関して日本肝胆膵外科学会への要望 自由記載 (170名記載)

### その他

- 抄録、スライド、発表と指導してもらえる機会やアナウンスを設けてほしい
- 高度技能医専門医制度のような試験は日本しかないのだから学会が責任もって世界にアピールすべきでは。サイトの技能医の説明にも英文表記とか、技能医取得者の名簿にも英語名を付記してアピールしたらどうか
- 学術集会の英語化は良いが、医師全体の英語力向上に対する努力が足りていない。
- 英語化には大いに賛成だが、あまりに準備不十分な発表者が多すぎる。特に質疑応答は見るに堪えない。ネイティブじゃないからこそ、想定した質問に対する答えを準備すべき。

## 23. 学術集会の英語化を今後も継続していくことを前提とした場合、改善策やよりよいアイデアなど 自由記載（119名記載）

- 同時通訳者・ソフトの配置 60名（50.4%）  
：配置するなら日本語→英語でいいのでは？ 3名（2.5%）
- オンデマンド配信時に翻訳 12名（10.1%）
- 英語トレーニングコンテンツの提供 9名（7.5%）
- 日本語セッション造設 6名（5.0%） ；若手のため、勉強のため
- 日本語使用の許容 4名（3.4%）
- スライド、質問の事前登録制導入 4名（3.4%）
- 海外招聘者増加希望 2名（1.7%） ；日本人同士での英語コミュニケーションの意義を感じない
- 個々の努力 4名（3.4%）
- その他 3名（2.5%）
- 英語化への疑問 5名（4.2%）



## 23. 学術集会の英語化を今後も継続していくことを前提とした場合、改善策やよりよいアイデアなど 自由記載（119名記載）

### 英語トレーニングコンテンツの提供 9名（7.5%） （一部抜粋）

- ：英語発表のコツを学ぶセッションを毎回設定していただく。
- ：Listeningは概ねできると思うがspeakingができない方が多い。プレゼンの講習会などあれば受講したい。
- ：若手向けの英語トレーニングセッションは聴衆も非常に勉強になりました。
- ：今回あった英語トレーニングセッションに参加しましたが、大変勉強になりました。  
安易に学会を日本語に戻すのではなく、日本人若手肝胆膵外科医の英語での発信力をアップしていくのに注力していけば、それがベストだと思います。
- ：学会HPで英語スライド例や英語質疑応答文例の紹介。
- ：英語発表の模範例のVideoなどを公開してもらえると勉強の参考になります。  
AHPBAのyoutube channelはよく参考にしていますが、よりわかりやすいものがよいです。  
よく使う表現集などがあると嬉しいです。
- ：セッションの最後にnativeによる振り返り（ここの言い回しは、こうした方が英語らしい）など

### その他 3名（2.5%）

- ：肝胆膵外科学会の抄録の提出条件に、toefl 80点以上、ielts7以上とする
- ：日本語発表のみの学術集会の別途開催
- ：スライドは英語、発表言語は日本語

## 23. 学術集会の英語化を今後も継続していくことを前提とした場合、改善策やよりよいアイデアなど 自由記載（119名記載）

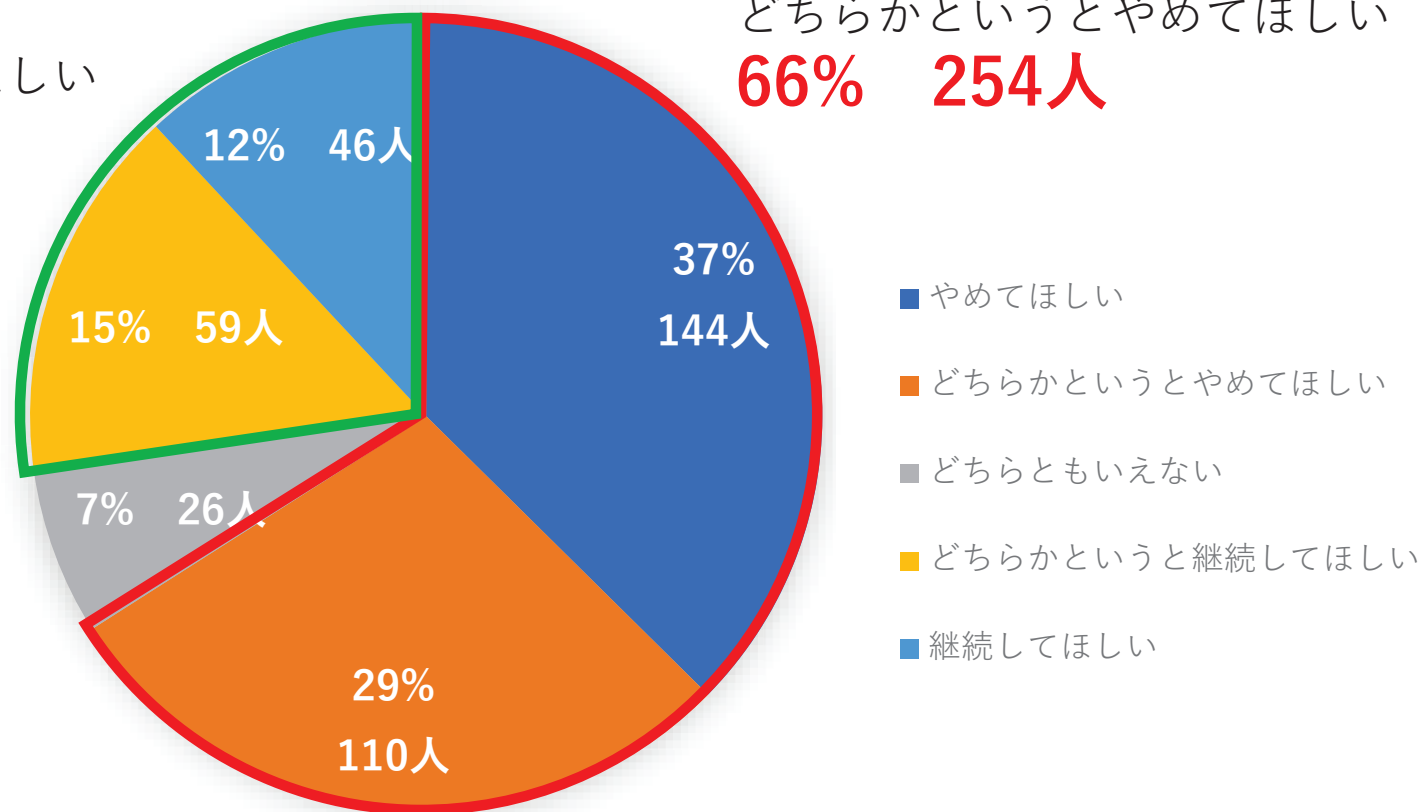
### 英語化への疑問 5名（4.2%）（一部抜粋）

- ：英語化は完全に反対です。英語化だと研修医もいっさい参加したがないし、勉強にならない。臨床で困っていることなどを勉強したいのに、英語化で阻害されている。
- ：例のような方法を用いるのであればそもそも英語化を強要すべきではない。英語化を前提として方法論を考えていること自体が本来の学術集会の本質からずれていると言わざるを得ない。
- ：英語の学会であれば参加しません。頭に入ってこない・議論にならない・面白くない学会には行きたくありません。
- ：肝胆膵外科学会として意地でも英語化を進めていきたいのだと思いますが、同時通訳の設置などは理解に苦しむ対策です。そんなことするくらいなら全部日本語での発表にして、海外招聘者がいるセッションのみ「日本語の発表→英語に変換」で良いのではないのでしょうか？
- ：通訳おいたらなんとかなる気もしますが、全演題には無理だと思うので、せめて上級演題だけでも広く参加しやすい形にしたほうが良いと思います。いまはわざわざ学会側から門戸を狭めていると思います。学生などもよっぽどじゃなきゃ理解できないし何か小難しいことをやってよくわからないで終わってしまうと思います。今以上にさらに肝胆膵外科を目指す人間が減るだけだと思います。
- ：先に述べたように、継続していくことを前提とした議論は一度やめて、なぜ劣悪になっている議論の中、英語化を継続したいのか、理由をはっきり述べたほうが良い。

## 24. 今後の学術集会の完全英語化について

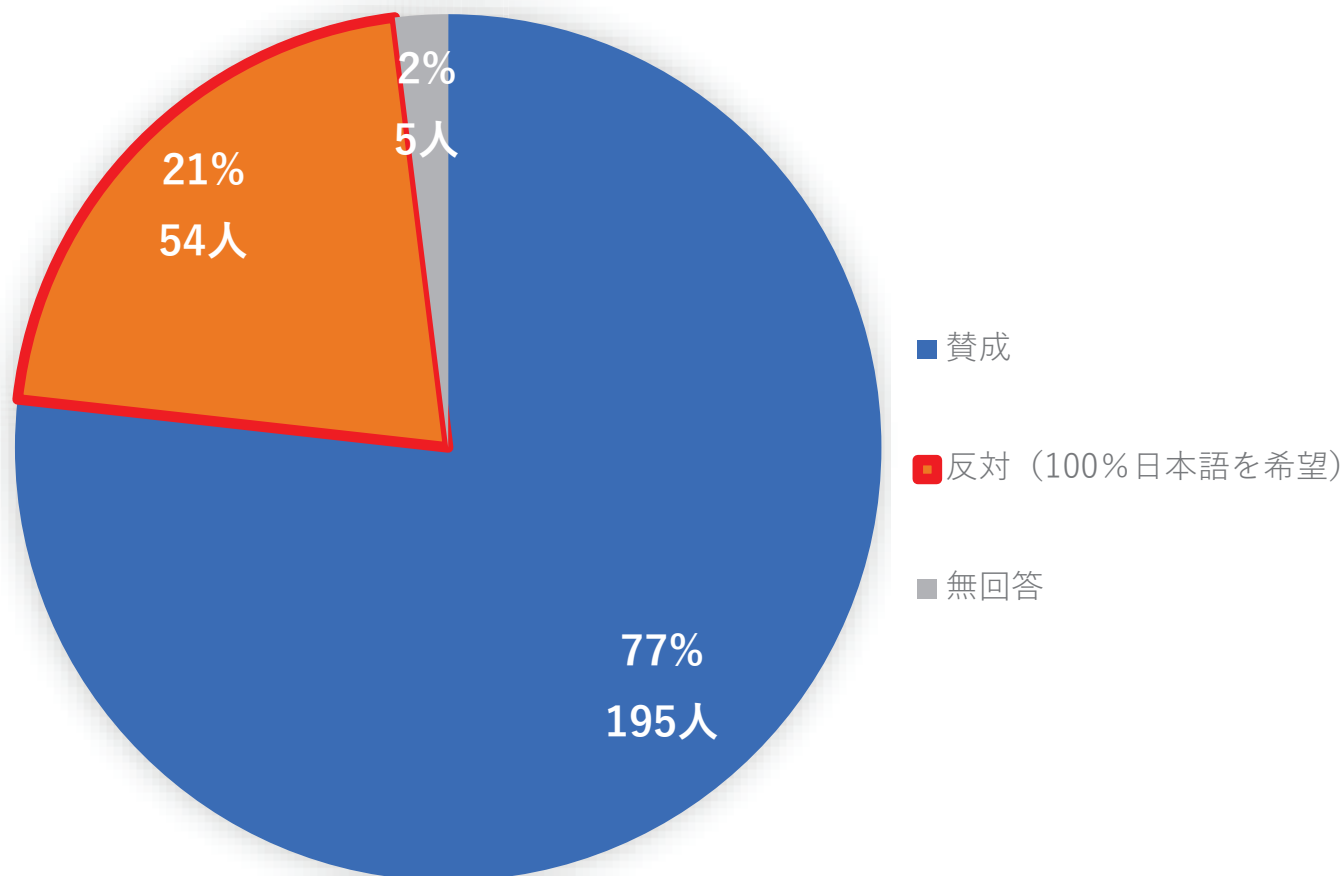
継続してほしい+  
どちらかというとき継続してほしい  
**27% 105人**

やめてほしい+  
どちらかというときやめてほしい  
**66% 254人**



## 25. 部分的に日本語に戻すことについて

Q24で「やめてほしい」+「どちらかというをやめてほしい」と回答した66%、254人からの回答



学術集会の英語化を

「やめてほしい+どちらかというをやめてほしい」と回答した21%は100%日本語希望